

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
金融と証券Ⅱ money and securities marketⅡ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅰ・Ⅱ、ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、ファイナンシャルプランナーⅠ・Ⅱ、金融と証券Ⅰ, 税法Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅱ、ビジネス実務総論Ⅱ、ファイナンシャルプランナーⅡ、税法Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
<p>先ず広義の金融政策における金融・証券の役割や景気変動と金利、物価、為替の関係を概観した後に、銀行と証券会社における金融商品の種類やその利回り、価格の決定などを取り上げる。ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す受講者にとっては、試験科目の内容と重複しているので試験対策としても有意義である。</p>				
授業の目標				
<p>①金融・証券市場における金利・為替・景気の間関係を説明できるようにする。 ②貯蓄型金融商品を理解して投資目的に合った金融商品の説明ができるようにする。 ③債券投資・株式投資の内容と特徴を説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
基本的には講義形式であるが 履修者の理解を深めるために対話方式により金融と証券の時事問題を取り上げる。				
学習の成果 (学習成果)				
経済社会における景気変動・金利・為替・物価の関係を理解した上で、投資目的に沿った財形型金融商品の種類をあげてその内容を説明し、さらに、債券市場と株式市場の特徴と内容を理解した上で投資目的に沿った債券と株式に選択のためのポイントを説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	経済社会における金融・証券の重要性			
第3回目	経済活動における金融政策と財政政策			
第4回目	マーケットの変動とその要因① (景気と金利・物価)			
第5回目	マーケットの変動とその要因② (景気と為替)			
第6回目	貯蓄型金融商品① (貯蓄型金融商品とは)			

第7回目	貯蓄型金融商品②（金融商品の特性、固定金利と変動金利、単利と複利、利回りと利率）	
第8回目	貯蓄型金融商品③（銀行の代表的金融商品、信託銀行の代表的金融商品、ゆうちょ銀行の代表的金融商品、金融債）	
第9回目	債券投資①（債券投資とは）	
第10回目	債券投資②（債券の種類と取引と債券の利回り） 小テスト	
第11回目	債券投資③（債券の取引と債券価格の変動）	
第12回目	株式投資②（株式の権利、株式の種類、株式の売買）	
第13回目	株式投資③（株価決定方法と注文の方法、売買の種類、取引所取引と店頭取引）	
第14回目	金融と証券Ⅱに関する理解度を確認するため、講義全般の範囲を対象とした試験	
第15回目	まとめと講義の振り返り（授業の補足すべき内容の説明や受講者からの質問に答える）	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	10%	授業に積極的に参加して、配布物資料以外の重要な事項についても主体的に調べ、授業での疑問点には進んで質問すること。
レポート	10%	証券と金融に関するDVDを鑑賞した後、その内容をテーマに添って論理的一貫性を以て記述すること。
調査報告書		
小テスト	10%	出題された5つの基本的な専門用語を、1問300字以内にその要点を纏めて記述すること。
試験	60%	設問の主旨を理解した上で、設問で求められている内容を必要な専門用語を使いながら一貫性を以て論述すること。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書は使用しない。必要になった場合、そのつど資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
授業中の私語は禁止する。また、原則的に欠席・遅刻は禁止する。甚だしい時は減点の対象とする。		